

こういう仕事をしていると、様々な国で様々な人々との出会いがある。人種も違えば、もちろん言葉だって違う。元々人と話をするのは嫌いな方では無いけど、僕の場合、自分が「溶け込めてる」と感じるまでに、結構時間がかかる。だから、時には、どうやって短時間で人とのコミュニケーションを取ろうかと、躊躇してしまうこともある。

子供たちにカメラを向ける時、手っ取り早いのは、自分もテンションを上げて半ば強引に笑顔を引き出す方法もあるけれど、どうも昔からそういうやり方は苦手だった。それが悪いというわけではなく、そうしている自分に照れを感じてしまうのだ。だから、そんな風に見える人を見ながら、ちょっと羨ましいと思う事もあった。

人の写真を撮るのが好きな割には、モデルとなる相手のテンションを上手く乗せてあげるのが苦手。しかも、スタジオで時間をかけての撮影ならともかく、ビーチや道端で、たまたま出会った人を撮影するのだから、チャンスは本当に限られている。「時には強引さも必要」と分かっているが、できない。ある意味プロカメラマンとして失格なのかなと思いつつも多かった。それでも、人を撮るのが好きだから、様々な場所で撮影した、様々な人の写真はどんどん増えていった。

フリーカメラマンになる以前から毎年訪れているマーシャル諸島でも、沢山の写真を撮影した。何度も訪れて交流も深まり、現地の人たちから、様々な話を聞く機会も増えた。マーシャル語で「こんにちは」は「イヤコエ」と言う。最初の頃は、その発音がどうも苦手で、あまり使う気になれなくて英語で挨拶していた。

「イヤコエの意味知ってる？」ある時、取材で一緒になったマーシャル人の男性にこんな質問をされた。「知ってるよ。こんにちはでしょ」。僕がそう答えると、「この言葉には、愛してるって意味もあるんだよ。それに『イヤ』は『虹』、『コエ』は『あなた』で、『あなたは虹』っていう意味なんだ。だから出会う人は皆、自分にとっての虹なのさ」。彼はちょっと照れくさそうに、そしてちょっと自慢気に教えてくれた。

今では、マーシャルにいる時の挨拶は「イヤコエ」。海外のロケ先でも、虹を見ると、この言葉を思い出す。『あなたは虹』。そして、いつの頃からか人を撮影する時にも、無理にテンションを上げようとは思わなくなった。はにかんでいてもいい。自然な笑顔が見たいから。

You are the Rainbow.

